

第 162 号

発 行

沼津地区環境保全協議会

沼津市米山町 6-5

沼津商工会議所

編 集

沼津地区環境保全協議会



沼津地区環境保全協議会

1. ひとこと

「次の 100 年に向けて～脱炭素社会の実現へ～」

沼津市環境政策課

2. 視察研修会（県内）

「NPO 法人 Earth Communication（アマモの保全活動）」を
訪ねて

（株）フジクラエナジーシステムズ 武井 祐史

「浜岡原子力発電所」を訪ねて

（株）リコー 沼津事業所 豊田 秀人

3. 会の動き

「次の100年に向けて～脱炭素社会の実現へ～」 沼津市環境政策課

沼津地区環境保全協議会におかれましては、日頃より本市の環境行政及び施策にご理解ご協力をいただき、謹んで御礼申し上げます。

さて、市政100周年を迎えた令和5年は、脱炭素社会の実現に向け、大きく前進した年と言えます。

一番の理由としては、昨年4月に、沼津商工会議所において「脱炭素特別推進委員会」が組織され、同じく4月から設置された本市のゼロカーボン推進室と連携し、官民が一体となって脱炭素に取り組む体制が整備されたことです。

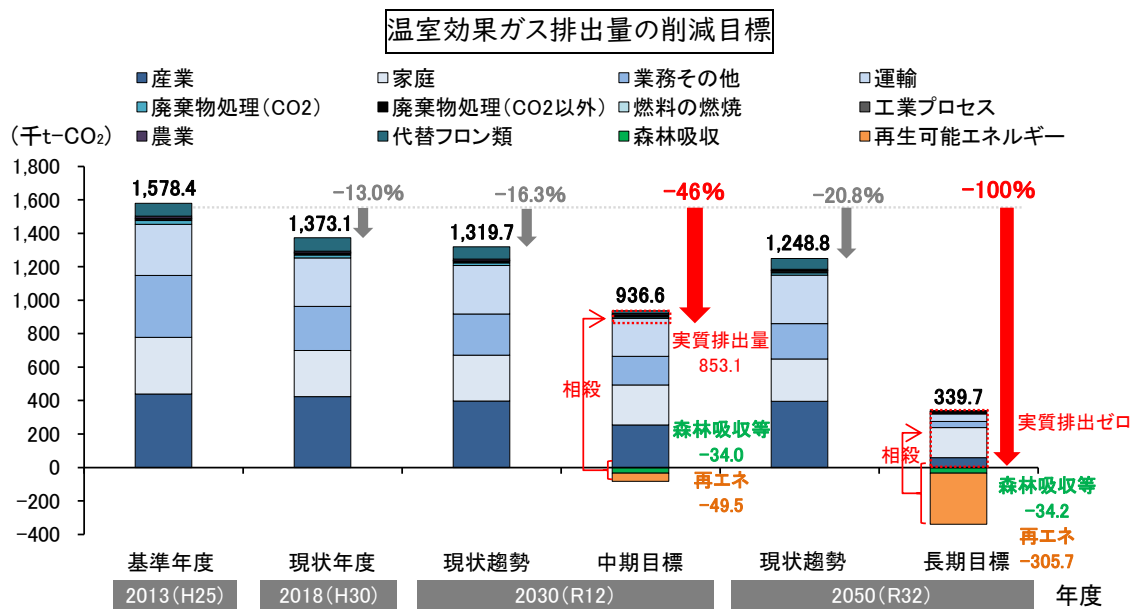
また、具体的な取り組みとしましては、本市の2050年温室効果ガス排出量実質ゼロを達成するための再生可能エネルギー導入や省エネルギーの目標などをまとめた「沼津市再生可能エネルギー導入目標及び脱炭素ロードマップ」の策定や、新たにカーボンフリー充電の普及促進に向けた「沼津市 EV 導入促進による脱炭素型地域社会・地域防災強化事業」を実施し、事業所に対しEV導入費用の一部補助を行った事などが挙げられます。

その他にも、省エネルギー設備導入を支援する「中小企業者地球温暖化対策事業費補助金」、第三者所有モデルによる太陽光発電システムの設置を支援する「第三者所有モデルによる中小企業者再生可能エネルギー普及促進事業費補助金」等も引き続き実施しました。

しかしながら、下記の「沼津市再生可能エネルギー導入目標及び脱炭素ロードマップ」に定める「温室効果ガス排出量の削減目標」からも分かるとおり、2030年、2050年に向け、これまで以上に積極的な対応が求められ、また令和6年は、市として次の100年に向けての第一歩となる年でもあることから、これまでの支援の継続に加え、国の補助事業を活用した、市民及び事業所向けの補

助事業の拡大を目指したいと考えております。

本市における脱炭素社会の実現には、事業所の皆様の協力が不可欠であり、市として事業者の皆様を取組を後押しすることが重要と考えていることから、引き続き事業者の皆様に対する連携・支援を積極的に進めてまいりますので、今後とも市の施策へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



「NPO 法人 Earth Communication(アマモの保全活動)」を訪ねて

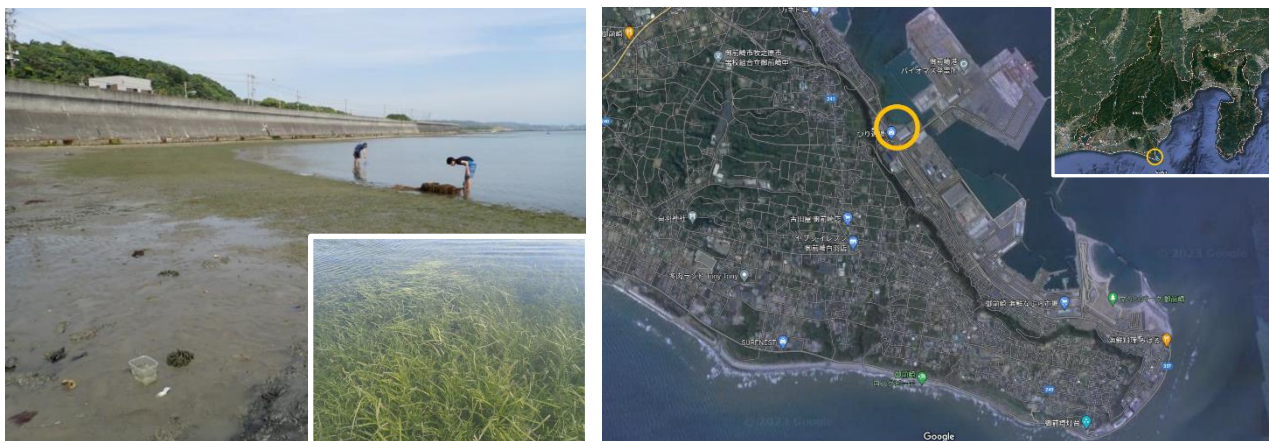
(株)フジクラエナジーシステムズ 武井 祐史

近年短くなった秋の中、11/10(金)に沼津地区環境保全協議会で「アマモの保全活動」の視察研修のため御前崎市の久々生(くびしょう)海岸(NPO 法人 Earth Communication)を訪問した。

アマモは浅瀬の砂地に生える海草の一種で、アマモの群生地(アマモ場)は「海のゆりかご」とも呼ばれ海の多くの生き物の生息場所となる。また、二酸化炭素の吸収や海水の清浄化の効果もあるが、水質悪化などにより減少し、人の手による再生活動が行われている場合もある。

しかし、久々生海岸のアマモは自然に自生し、群生し、その範囲を拡大している大変稀なケースである。

1. 久々生海岸



久々生海岸(所在地:静岡県御前崎市)

2. 概要

2.1 久々生海岸

久々生海岸は静岡県の御前崎にある御前崎港の西側にある長さ 100m 程度の砂浜である。防波堤があり、海岸への出入りが制限されている。

御前崎港ができる前は砂浜だったがアマモの群生は見られず、御前崎港ができた後は砂が流されて岩場になっていた。ところが、御前崎港の拡張工事後、砂が堆積するようになり、コアマモ等が自生し、群生し、その範囲を拡大させている。2022年4月の調査では、群生域は約 1.1ha、約 80 種の海の生き物を確認、干潟の様な海岸環境が形成されている。

なお、海洋ゴミも流れてきて溜まり場となっている。

2.2 NPO 法人 Earth Communication

自然と共存し、より良い自然や環境を未来へとつなげていくことのできる持続可能な環境や社会づくりを目指して活動を行っている。

(1) 久々生海岸での活動内容

①アマモ場の生き物の観察会の開催

毎年、初夏（6月頃）に実施されアマモ場の生き物の動向を確認している。2019年から行われており22年の参加者は34名。

②ビーチクリーン

2019年から台風などが来た際に砂浜に打ち上げられたゴミの清掃を行っている。22年には41回実施、延べ428名が参加し約2,100kgのゴミを回収した。

③コアアマモやアマモの自生・群生のメカニズム調査

*現時点で自生・群生のメカニズムは調査中で解明されていない。

*遺伝子調査の結果、久々生海岸のコアマモは浜名湖由来と判明。

*現在、土壌成分に着目して調査中

*調査目的

- ・日本各地でアマモの再生活動（種の採取→苗の育成→植付）を行っているが、上手く増えないことが多い。久々生海岸のメカニズムを解明することで全国の再生活動の手助けとする。
- ・また、神戸運河の様に人工的にアマモ場を作る動きもみられ、その様なケースで久々生海岸のメカニズムを生かす。

④協働的な取り組み

ビーチクリーンなどの活動がきっかけとなり、静岡大学、東海大学、静岡県内の研究機関、企業、静岡県、国土交通省 中部地方整備局と協働的な取り組みを行っている。

⑤J ブルークレジット

1.0ton CO₂分のクレジットを発行

3. 視察風景



説明を受けた
御前崎市観光物産館「なぶら館」



NPO 法人 Earth Communication
川口眞矢代表理事による説明状況



説明資料より
ビーチクリーン状況

4. 感想

アマモの再生活動については聞いたことがあり、漠然と苗を植えれば根付き、増えていくものだと思っていた。しかし、この視察研修で、環境変化により減少したアマモの再生は容易ではない事、その一方で人が環境を変えたことによりアマモが自生を始めた事を知り、環境の大切さを改めて感じた。

久々生海岸での活動が全国のアマモ保全活動につながっている事を感じた。

沼津地区環境保全協議会視察研修会

「浜岡原子力発電所」を訪ねて

(株)リコー 沼津事業所 豊田 秀人

本格的な冬到来前であった 2023 年 11 月 10 日に浜岡原子力発電所の視察研修会に参加しました。



原子炉の再現模型

■施設概要

浜岡原子力発電所は、静岡市の南西約 50km、浜松市からは東へ約 50kmの御前崎市佐倉に位置しており、敷地の面積は約 160 万平方メートルです。

お茶畑が、連なる牧之原台地を背後に遠州灘に面した平坦な海岸地帯にあります。

また、日本で唯一、敷地全面に専用の港を設けていない原子力発電所です。

このため、大型機器等は、発電所と御前崎港との間を陸上輸送しています。

原子炉で発生させ、タービンを回した後の蒸気を間接的に冷やす海水は、沖合 600mに設置した取水塔から取水しています。

所在地： 静岡県御前崎市佐倉 5561

■施設の見学風景



《職員による施設の説明》



《施設の模型》



《集合写真》

■コメント

見学は、全体的に勉強になる事が多く、参加者も研修内容の充実さを実感していました。

浜岡原子力館では、東日本大震災前から静岡県や御前崎市、牧之原市、掛川市、菊川市と安全協定を結んでいる説明があり、大震災後 2016 年には新たに島田市をはじめとした5市2町とも安全協定を結び安全への取り組みをしています。

浜岡原子力発電所は 1 号機から 5 号機まであり、全て稼働は停止しているが、その管理は徹底しており、特に安全管理について万全を期しています。

東京ドーム約 34 個分の敷地では、中部電力従業員が約 700 人、その他協力会社の従業員が約 2,000 人働いています。

原子力館内では、実物大の 3 号機原子炉模型の前で実際にどのように発電するか説明を受けました。

また、バスを使用して向かう発電所巡りでは、ゲートでの厳重なチェックがあり、万全な安全管理を参加者全員が実感できました。

災害時の津波対策もしっかりと行われており、20 メートルを超える防波壁の高さにも驚かされましたが、あらゆる災害への徹底した対策が取られている事を感じました。

私自身は元より、一緒に研修会に参加した全般が、「とても有意義で勉強になった」と感想を抱いていました。

会の動き

【総会】

☆2023年 5月30日

- 内容：(1) 2022年度事業報告承認の件
(2) 2022年度収支決算承認の件
(3) 役員選任の件
(4) 2023年度事業計画（案）決定の件
(5) 2023年度収支予算（案）決定の件

【理事会】

☆2023年 4月25日

- 内容：(1) 総会について
(2) 事業計画について
(3) 機関紙「水と空」第162号の企画について
(4) その他

☆2023年 7月20日

- 内容：(1) 事業計画について
(2) 機関紙「水と空」第162号の企画について
(3) その他

【環境関連県内施設視察研修会】

☆2023年11月10日

- (1) NPO 法人 Earth Communication（アマモの保全活動 静岡県御前崎市）
(2) 浜岡原子力発電所（静岡県御前崎市）

【機関誌の発行】水と空 第162号発行

☆2024年3月8日